

平成25年度第1回 被服学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

I. 日 時：平成25年10月23日（水）12：00～14：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：阿部委員長、山口委員、伊佐治委員、渡部委員
（事務局）井端事務局長、森下、松本

IV. 資料

資料① 平成25年度被服学教育FD/ICT活用研究委員会の活動計画

資料②-1 被服学教育における教育改善モデルについてアンケートの内容

資料②-2 被服学教育における教育改善モデルについてアンケート集計結果

参考1 学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査（平成25年8月中央教育審議会資料）

参考2 これからの大学教育等の在り方について（平成25年5月教育再生実行会議第三次提言資料）

参考3 教育振興基本計画（平成25年6月閣議決定資料）

参考4 学びの革命世界が舞台（新聞情報）

参考5 誰でも無料ネット講義（新聞情報）

その他 平成25年度委員名簿、平成25年度公益社団法人私立大学情報教育協会事業計画書

V. 議事内容

1. 平成25年度の被服学教育FD/ICT活用研究委員会の活動計画について

平成25年度は、能動的学修の実現に向け、ICTの活用を含めた効果的な学修の取り組み方策、教員の教育指導の開発について今後一層研究を進めるため、サイバーFD研究員の先生方へのアンケートを踏まえた見直しを2回の委員会で行う。その上で、平成26年度に向けた教育改善モデルの一層の充実・改善及び実現に向けた研究の意識合わせを行う。

2. 教育改善モデルのアンケートの検討について

資料②-1によりサイバーFD研究員の先生からいただいた6件の意見について内容を検討した。

3. アンケートの主な意見

（1）被服学教育における学士力の考察の到達目標、到達度について

概ね賛同するとの結果が得られた。

主な意見と検討内容（意見は①～⑤、検討内容は*で示す）

① 子供服についても追記した方が良いのではないかと。

* 成人とも子供とも特定していないので、特に修正はしなかった。

② 到達目標2または3のコア・カリキュラムイメージに「被服衛生学」あるいは「被服生理衛生論」があるべきではないかと。人間工学としての知識だけではなく、生理的知識も欠かせない。

* 到達目標2の解説に「人体の構造・動作・生理機能や人体の被服との関係を理解させ～」と幅広く提案しているが、わかりやすくするため、コア・カリキュラムイメージに「被服衛生学」を追記することにした。

③ 到達目標1における「被服の着用などによるイメージ」「ファッションイメージ表現」「被服のイメージ」の文言を統一してはどうか。

* 到達度②「被服のイメージ」を「被服の着用イメージ」に修正することにした。

到達目標1「被服の着用などによるイメージ」は、被服のイメージ、着衣イメージなど幅広く提案しているので、特に修正はしなかった。

コア・カリキュラムイメージについては、今の時代は「被服の着用イメージ」より「ファッションイメージ表現」とした方がわかりやすいので、特に修正はしなかった。

④ 到達目標1「被服の着用などによるイメージや感性の表現ができる。」についてですが、過去を学び現在の生活に適する衣服を考えさせることが必要なので、適切な到達目標、到達度の提示が必要ではないか。

* 歴史については提案しているが、未来思考にもつながるよう表現を見直しすることにした。例えば、「より良い社会に適合できる衣服形態をイメージできる」など。

ただし、到達目標1では目標が高すぎるので、到達目標3または4で追記することにした。

⑤管理、染色なども重要ではないか。

* 管理は到達目標5コア・カリキュラムイメージ「アパレル消費科学」、到達度②「省資源的ライフスタイル」に、染色は到達目標3「被服材料」に含めているので、特に修正はしなかった。

(2) 教育改善モデルについて

殆どが肯定的な意見であり、よくできたモデルであると評価され、特に見直し等の必要は無かった。

(3) 専門性、教育力、FD活動と課題について

殆どが賛同の意見であった。

主な意見と検討内容（意見は①、検討内容は*で示す）

① 専門性①「精神生活を豊かにする衣生活の重要性」の表現について気になります。

* 「精神」を取り、「生活を豊かにする衣生活の重要性」に修正することにした。

4. 社会の動きなどを踏まえた能動的学修等の動向の意識合わせについて

参考1 学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査、参考2 これからの大学教育等の在り方について、参考3 教育振興基本計画、参考4 学びの革命世界が舞台（新聞情報）、参考5 誰でも無料ネット講義（新聞情報）等を報告し、新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて、国・社会から様々な提言が行われており、大学に改革行動が求められていることや、能動的な学びを実現する授業改善の取り組み、全学的な教学マネジメントの課題と対策、教員の教育力向上の課題、情報通信技術（ICT）を活用した授業改善への取り組みと課題等について意識合わせを行った。

昨年までの5年間に亘り研究を進めた「大学教育への提言」未知の時代を切り拓く教育とICT活用で提案した内容が学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査の結果や内閣府、中央教育審議会等の方向と一致しており、このことを踏まえて平成26年度にむけた教育改善モデルの一層の充実・改善及び実現に向けた取り組みを研究することを確認した。

5. 次回の委員会

日時：2月18日（火）または2月24日（月）12:00～14:00

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室